

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和4年9月28日時点

開催日時	開催場所・形式	名称
9月29日（木） 13：00～17：00	オンライン開催	公開シンポジウム 「東南アジアのアブラヤシ農園の持続的開発 の問題点と課題」
9月30日（金） 13：00～17：30	日本学術会議講 堂（ハイブリッ ド開催）	公開シンポジウム 「国際ガラス年 2022 記念シンポジウム」
10月1日（土） 9：00～11：30	パシフィコ横 浜・会議センタ ー5階「503」（第 14会場）（ハイブ リッド開催）	公開シンポジウム 「患者と医療者が協創するがん医療を目指し て」
10月1日（土） 13：00～16：30	オンライン開催	公開シンポジウム 「日本の物理学研究—過去・現在・未来」
10月2日（日） 13：30～17：30	オンライン開催	公開シンポジウム 「変容する現代世界と歴史認識・歴史教育の課 題」
10月6日（木） 13：00～15：30	オンライン開催	公開シンポジウム 「若手研究者をとりまく評価—調査結果報告 と論点整理—」
10月8日（土） 13：30～16：05	オンライン開催	公開シンポジウム 「食の安全と社会：科学者の社会への伝え方」
10月9日（日） 13：30～16：15	日本学術会議講 堂（ハイブリッ ド開催）	学術フォーラム 「地域の課題解決を地球環境課題への挑戦に 結びつける超学際研究」
10月13日（木） 15：00～17：00	オンライン開催	九州・沖縄地区会議主催学術講演会 「琉球列島の言語的・文化的多様性とその起 源：多様性の今とこれから」
10月21日（金） 16：00～17：30	オンライン開催	公開シンポジウム 「サイエンスアゴラ 2022 セッション『世界科 学フォーラム in ケープタウン：社会正義と未 来への科学』」

10月21日（金） 16：00～17：30	オンライン開催	公開シンポジウム 「持続可能な未来をつくる意思決定の仕組み」 ※サイエンスアゴラ 2022
10月22日（土） 14：30～16：00	兵庫県神戸市 JICA 関西 2F ブ リーフィング室 セッションシア ター（ハイブリ ッド開催）	公開シンポジウム 「21 世紀前半に発生が確実視される国難級災 害を乗り越えるためのレジリエンス確保のあ り方」 ※ぼうさいこくたい 2022 セッション
10月22日（土） 16：30～18：00	オンライン開催	公開シンポジウム 「自然災害を取り巻く環境の変化—防災科学 の果たす役割—」 ※ぼうさいこくたい 2022 セッション
10月29日（土） 13：30～17：30	オンライン開催	公開シンポジウム 「歴史教育シンポジウム：歴史総合をめぐって (6)「歴史総合」の教科書と授業を検討する」
11月5日（土） 10：00～17：00	日本学術会議講 堂（ハイブリッ ド開催）	公開シンポジウム 「日本の社会・産業をリードする化学系博士人 材とは～産学で取り組む博士人材育成と、これ から博士を目指す学生への期待～」
11月5日（土） 13：00～17：10	オンライン開催	学術フォーラム 「安心感への多面的アプローチ」
11月5日（土） 13：30～16：55	東北大学片平キ ャンパス片平さ くらホール（ハ イブリッド開 催）	日本学術会議 in 宮城 公開学術講演会 「積雪・寒冷地域における暮らしのこれまでと これから—持続可能な発展のための氷雪圏か らの視座」

※新型コロナウイルス感染症の等の状況により、開催形態が変更となる可能性がありますので、学術フォーラム・公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。

日本学術会議 公開シンポジウム

東南アジアのアブラヤシ農園の持続的開発の問題点と課題

東南アジアでのアブラヤシ農園の拡大は、熱帯泥炭林などの森林損失や温室効果気体の排出量増加によって地球環境に大きなインパクトを及ぼしている。他方でその地域・国の基幹産業となっており外貨収入の貴重な手段である。日本においても輸入食用油のうち、パーム油は最大の輸入量を占める。本シンポジウムでは、このアブラヤシ農園の開発の背景、および持続的開発と維持における問題点と課題について、最新の知見を紹介する。

開催日時 2022年9月29日(木)
13:00~17:00



<https://forms.gle/C9qA21NCg1UKX87c6>

オンライン配信：HPより申し込み受付

プログラム

【司会】 吉本 真由美 (連携会員)

●開催挨拶 (13:00~13:05)
仁科 弘重 (会員)

●趣旨説明 (13:05~13:10)
谷 晃 (連携会員)

講演① (13:10~13:45)
アブラヤシ農園の拡大が私たちに問うこと—東南アジア発の地球的課題—
林田 秀樹 (同志社大学 人文科学研究所 教授)

講演② (13:45~14:20)
アブラヤシ農園の開発による生態系機能の変化と大気環境への影響
平野 高司 (連携会員、北海道大学 農学研究院 教授)

講演③ (14:20~14:55)
東南アジアのアブラヤシ農園の拡大が生物多様性・生態系サービスに及ぼす影響
鮫島 弘光 (地球環境戦略研究機関 生物多様性と森林領域 主任研究員)

●休憩：15分

講演④ (15:10~15:45)
持続可能なアブラヤシ産業のありかた
北川 尚美 (会員、東北大学 工学研究科 教授)

講演⑤ (15:45~16:20)
持続的なアブラヤシ農園経営に向けた農作物残渣の利活用技術の開発
近藤 俊明 (国際農林水産業研究センター 生物資源利用領域 主任研究員)

●総合討論 (16:20~16:50)

●閉会挨拶 (16:50~17:00)
大政 謙次 (連携会員)

主催：日本学術会議農学委員会農業生産環境工学分科会、日本学術会議環境学委員会環境科学分科会
共催：日本農学アカデミー

国際ガラス年2022

記念シンポジウム

2022年9月30日(金) 13:00-17:30 参加無料

ハイブリッド開催

日本学術会議講堂およびオンライン会議システム

どなたでも参加できます。
申し込みはこちらから。

私たちの生活を支えるガラス、美しい光を放つガラス、最先端技術を支えるガラス、ガラスをもっと知りたくなる、そういうシンポジウムです。ガラスを知り尽くした先生方のお話を聴くことができます。当日、わくわくしてお会いしましょう！



プログラム

Opening

13:00 ようこそ！ 茶谷 直人（日本学術会議 第三部会員 化学委員会 委員長、大阪大学名誉教授）

13:05 開催趣旨 長谷川 美貴（日本学術会議 連携会員 無機化学分科会委員長、青山学院大学理工学部 教授）

第一セッション「ガラスと私たちの生活」

総合司会：内田 さやか（日本学術会議 連携会員、東京大学大学院総合文化研究科 准教授）

13:10 基調講演「**人類の進歩とガラス**」～自然は黒曜石を作り、人はガラスを作った～
有岡 雅行（日本電気硝子株式会社 取締役会長、日本セラミックス協会 元会長）

13:55 招待講演 「ガラスが織りなす光ネットワーク」
中沢 正隆（東北大学 電気通信研究機構 特任教授）

14:25 招待講演 「現代生活を支える身の回りのガラス材料」
小池 章夫（AGC株式会社 技術本部 材料融合研究所 無機材料部長）
(休憩 30分間)

第二セッション「ガラスと私たちの未来」

総合司会：井頭麻子（日本学術会議 連携会員、明治学院大学法学部 准教授）

15:25 招待講演 国際ガラス年2022国連採択の経緯

田部 勢津久（京都大学大学院 人間・環境学研究科 教授、国際ガラス年日本実行委員会 委員長）

15:55 招待講演 次世代全固体電池を支えるガラス

林 晃敏（大阪公立大学大学院 工学研究科 教授）

16:25 招待講演 分子集合から作るナノサイズのらせん状ガラス

小田 玲子（フランスCNRS, ボルドー大学 教授）

16:55 総合討論 ファシリテーター：田部 勢津久（京都大学大学院人間・環境学研究科 教授、国際ガラス年日本実行委員会 委員長）

17:10 閉会の辞 関根 千津（日本学術会議 第三部会員、材料化学分科会委員長、株式会社住化技術情報センター 代表取締役社長）

主催：日本学術会議化学委員会 無機化学分科会・材料化学分科会、国際ガラス年日本実行委員会

協賛・後援：応用物理学会、光化学協会、錯体化学会、触媒学会、日本化学会、日本希土類学会、日本セラミックス協会、ナノ学会、複合系の光機能研究会（五十音順）

問合せ先：wakuwaku.gakujutu.IC@gmail.com



患者と医療者が協創する がん医療を目指して

入場無料

どなたでもご参加
いただけます

日時 2022年10月1日(土) 9:00~11:30

会場 パシフィコ横浜・会議センター5階「503」(第14会場)

開催方法 ハイブリッド開催(現地+WEB配信)

※WEB配信はPC/スマートフォン/タブレットからご視聴いただけます。

開会挨拶

名越 澄子 (日本学術会議第二部会員、埼玉医科大学総合医療センター教授)

村上 善則 (日本学術会議連携会員、東京大学医科学研究所教授)

総合司会

村上 善則

伊藤 泰信 (日本学術会議連携会員、北陸先端科学技術大学院大学知識科学系教授)

第1セッション がん医療の現状と課題

『がん治療現場での、医師からの説明と患者からの質問: 消化器がん化学療法を中心に』

朴 成和 (東京大学医科学研究所附属病院教授)

第2セッション 人文社会科学の視点から見たがん医療

『便益遅延型サービスとしての医療』

藤村 和宏 (香川大学経済学部教授)

『病いの語り研究がもたらす新たな患者理解とは』

田代 志門 (日本学術会議特任連携会員、東北大学大学院文学研究科准教授)

『がん「患者体験調査」から見えるがん医療の現状、そして求められる患者と医療者の協創の姿とは』

高山 智子 (国立がん研究センターがん対策研究所部長)

特別発言

『血液・腫瘍内科学の視座から』

三谷 絹子 (日本学術会議第二部会員、獨協医科大学内科学教授)

『がん看護学の視座から』

小松 浩子 (日本学術会議第二部会員、日本赤十字九州国際看護大学学長)

『文化人類学の視座から』

伊藤 泰信

第3セッション 総合討論

モデレーター 伊藤 泰信

閉会挨拶

清宮 啓之 (日本学術会議連携会員、がん研究会がん化学療法センター部長)

お申込みはこちら

詳細は学術総会ホームページをご確認ください。
<https://site.convention.co.jp/jca2022/>



《お問合せ先》【第81回 日本癌学会学術総会 運営事務局】

日本コンベンションサービス(株)内

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞が関ビル14階

FAX : 03-3508-1302 E-mail : jca2022@convention.co.jp

国際純粋・応用物理学連合100周年記念 オンライン講演会



湯川秀樹：
京都大学基礎物理学研究所提供

日本の物理学研究 —過去・現在・未来—

2022年10月1日(土) 13:00～16:30

「日本の物理学はいかに生まれて発展したか：窮理学から湯川へ」

早川 尚男（京都大学基礎物理学研究所 教授）

「物理学と加速器 —日本におけるその歴史—」

菊谷 英司（高エネルギー加速器研究機構 協力研究員）

「物質を解明して役立てる物理学 —日本人研究者たちの寄与—」

長谷川 修司（東京大学理学系研究科 教授）

「量子力学から量子コンピューターまで」

村尾 美緒（東京大学理学系研究科 教授）

パネル討論「物理研究の未来と夢」

会場：オンライン開催（Zoomウェビナー）

参加費：無料

定員：1000名（申込先着順）

対象：高校生を中心とする一般の方



申込方法：

左のQRコード または 以下のURLから申し込んでください。

https://www.jps.or.jp/activities/iupap/iupap100_lecture.php



主催：日本学術会議IUPAP分科会、日本物理学会

私たちは 国連の「持続可能な発展のための国際基礎科学年2022」
(IYBSSD2022) に賛同しています。



「変容する現代世界と歴史認識・歴史教育の課題」

《趣旨》 グローバル化の果てに深刻な「分断」の進行、新たな「戦争」の脅威にさらされつつある現代世界において、歴史認識と歴史教育が持つ意味について改めて考えます。歴史認識の重要性を日本・アジア・世界をつなぐ多面的・複眼的な視角から論じると同時に、現在の社会における歴史認識・歴史教育が抱える課題を多様な視点から検討し、科学的・客観的な歴史研究、現代を生きる世界の市民のための民主的歴史教育と歴史実践の発展の展望を探ります。

《日 時》 2022 年 10 月 2 日（日）13：30～17：30

《開催形式》オンライン形式（参加費無料・要事前申込）

参加希望者は以下の申込用フォームよりご登録ください。（※9 月 22 日まで。ただし申込者数が上限に達した段階で締切とさせていただきます。）後日、接続用 URL を送付します。

<https://forms.gle/Hro61vStcdqNxgwWV9>

《プログラム》

13：30 開会の辞：久留島典子（日本学術会議連携会員、神奈川大学教授）

13：40 趣旨説明：栗田禎子（日本学術会議会員、千葉大学教授）

第Ⅰ部：歴史認識と現代世界：日本のアジア認識と歴史認識問題

司会：平野千果子（日本学術会議連携会員、武蔵大学教授）、

久保亨（日本学術会議連携会員、信州大学特任教授）

13：50 報告 1：日中／日台関係と歴史認識問題——社会的「分断」と歴史政策

川島真（日本学術会議連携会員、東京大学教授）

14：20 報告 2：東アジアにおける歴史認識の課題

鄭在貞（ソウル市立大学名誉教授）

14：50 コメント：認識と問題をグローバルな文脈に置き直す

井野瀬久美恵（日本学術会議連携会員、甲南大学教授）

休憩（15：10～15：20）

第Ⅱ部：討論

司会：大日方純夫（日本学術会議連携会員、早稲田大学名誉教授）、栗田禎子、

中村元哉（日本学術会議連携会員、東京大学教授）

討論者：歴史教育の視点から・・・坂井俊樹（日本学術会議連携会員、開智国際大学教授）

史料保存・社会のなかの歴史実践の視点から

・・・奥村弘（日本学術会議連携会員、神戸大学教授）

ジェンダー史の視点——史学委員会ジェンダー史委員会の取組・議論から

・・・長志珠絵（日本学術会議連携会員、神戸大学教授）

パブリック・ヒストリーの視点から

——〈過去に対する真摯さ〉からプラクティカル・パストの構築を検証する

・・・北條勝貴（上智大学教授）

16：30 総合討論

17：30 閉会の辞：佐野正博（日本学術会議会員、明治大学教授）

《主催》日本学術会議 史学委員会、歴史認識・歴史教育に関する分科会

《連絡先》 [jimukyoku-20221002\(a\)hotmail.com](mailto:jimukyoku-20221002(a)hotmail.com) ※ (a) を@にしてお送りください。

日本学術会議 公開シンポジウム

若手研究者をとりまく評価

調査結果報告と論点整理

世界的な競争、評価をめぐる問題、キャリアパスに関する課題など、若手研究者をめぐる研究・知識生産の環境は多くの課題を抱えています。安定的な活動基盤の獲得のために、時にチャレンジングな研究の回避、あるいは評価指標を過度に気にした活動などの弊害が指摘され、知識生産の可能性を損ねていくことが危惧されています。

日本学術会議若手アカデミーでは、「若手研究者をとりまく評価に関する意識調査」を実施し、全国の多くの若手研究者から回答を得ました。本シンポジウムでは意識調査の結果を報告するとともに、若手研究者をめぐる評価のあり方について幅広い視点から議論し、知識生産をめぐるより良いエコシステムの形成に向けた論点整理を行います。

プログラム

13:00-13:20

開会挨拶 岩崎 渉 東京大学・教授
趣旨説明 小野 悠 豊橋技術科学大学・准教授

13:20-13:50 報告

「若手研究者をとりまく評価に関する意識調査」結果報告
標葉 隆馬 大阪大学・准教授

13:50-15:20 パネルディスカッション

経営学からみる若手研究者評価

服部 泰宏 神戸大学・准教授

研究環境からみる若手研究者評価

江端 新吾 東京工業大学・教授、内閣府・上席科学技術政策フェロー

ライフプラン・キャリアパスからみる若手研究者評価

加藤 千尋 弘前大学・准教授

産官学人材流動からみる若手研究者評価

塚本 直樹 富士フイルム株式会社・技術マネージャー

国際からみる若手研究者評価

新福 洋子 広島大学・教授

コーディネーター：

岸村 顕広 九州大学・准教授

近藤 康久 総合地球環境学研究所・准教授

15:20

閉会挨拶 望月 眞弓 慶應義塾大学・名誉教授

オンライン開催

2022年10月6日(木)

13:00～15:30

こちらからご登録ください▼



主催：日本学術会議若手アカデミー、若手アカデミー地域活性化に向けた社会連携分科会



科学者の社会への伝え方

2022年10月8日(土)13:30~16:05

オンライン開催

参加無料

QRより登録してください。
アクセスURLが自動で
送られます。



研究成果を社会に
誤解のないように伝えるために…



- 13:30-13:35 開会の挨拶 高井 伸二(日本学術会議会員、北里大学名誉 教授)
- 13:35-13:50 始めに：科学者の言葉がなぜ伝わらないのか
西澤 真理子(日本学術会議連携会員、リテラジャパン代表取締役)
- 13:50-14:10 メディアに伝えるときに何が問題になっているのか
澁澤 栄(日本学術会議連携会員、東京農工大学 特任教授)
- 14:10-14:30 研究成果の発信と社会
三井 誠(読売新聞)
- 14:30-14:50 科学者と社会：海外の視点より
宮城島 一明(元WHO/国際獣疫事務局(OIE))
- 15:00-16:00 総合討論 座長/司会：西澤 真理子
- 16:00-16:05 閉会の挨拶 石塚 真由美(日本学術会議会員、北海道大学 教授)



地域の課題解決を 地球環境課題への挑戦に結びつける超学際研究

日時: 2022年 10/9(日) 13:30~16:15

会場: 日本学術会議講堂

参加無料・オンライン配信あり

主催: 日本学術会議

後援: Future Earth国際事務局日本ハブ、フューチャー・アース日本委員会 企画: フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会

開催趣旨

地球規模課題の解決には、学界、産業界、行政、市民団体などの多様なステークホルダーとの協働が不可欠であり、協働企画、協働生産、協働発信を行うトランスディシプリナリー研究(超学際研究)の推進が求められるが、その本質は、各地域での課題解決の取組に宿っている。

本フォーラムでは、地域の課題解決に取り組んでいる国内外の実践的な超学際研究の好事例を紹介し、それをいかに地球規模課題の解決に資する超学際研究に結び付け、研究の推進や成果創出の加速に結び付けていけるのかについて議論する。また、当該研究分野の将来の発展に向けて研究評価の在り方や人材育成についても意見交換を行う。

参加申し込み

<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0110.html>



日本学術会議講堂での参加希望は定員になり次第締め切り、定員超過の際はオンライン参加

問い合わせ

日本学術会議事務局企画課
学術フォーラム担当
電話 03-3403-6295

アクセス

日本学術会議講堂
東京都港区六本木7-22-34
東京メトロ千代田線
「乃木坂」駅5出口



プログラム

13:30~13:45

開会の挨拶・趣旨の説明

司会

三枝信子 日本学術会議第三部会員、国立環境研究所領域長

開催挨拶

高村ゆかり 日本学術会議副会長、東京大学教授

趣旨説明

沖大幹 日本学術会議第三部会員、東京大学教授

13:45~14:45

パネルディスカッション1: 地域の課題解決へ向けた超学際研究

モデレータ

大手信人 日本学術会議連携会員、京都大学教授

講演

北川尚美 日本学術会議第三部会員、東北大学教授

「課題解決を目指す超学際研究の取り組み方」

国井修

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金(GHIT Fund) CEO

「貧困地域における感染症撲滅とユニバーサルヘルスカバレッジ」

14:45~15:00

休憩

15:00~16:00

パネルディスカッション2: 地球規模課題の解決に向けた超学際研究は果たして可能か

モデレータ

江守正多 日本学術会議連携会員、東京大学教授、国立環境研究所上級主席研究員

講演

小野悠 日本学術会議連携会員、豊橋技術科学大学大学院准教授

「若手研究者は超学際研究で国際都市課題にどう取り組むのか」

谷口真人 日本学術会議連携会員、総合地球環境学研究所副所長・教授

「超学際研究推進のための効果的な研究評価システムの構築」

16:00~16:15

まとめと今後の展望

大手信人 日本学術会議連携会員、京都大学教授

琉球列島の 言語的・文化的多様性とその起源

—— 多様性の今とこれから ——



司会進行 千住 智信 (琉球大学工学部 教授)

PROGRAM

1. 開会挨拶

菱田 公一 (日本学術会議副会長)
西田 睦 (琉球大学学長)

2. 講演

狩俣 繁久 (琉球大学 名誉教授)
「琉球列島の言語的多様性はどこまで維持できるか」
木村 亮介 (琉球大学 医学研究科 教授)
「琉球列島におけるヒトのゲノム多様性と移動」

3. パネルディスカッション

議題：多様性の今とこれから

コーディネーター
藤田 陽子 (琉球大学島嶼地域科学研究所教授)
パネリスト
狩俣 繁久 (琉球大学名誉教授)
木村 亮介 (琉球大学医学研究科教授)
山極 海嗣 (琉球大学島嶼地域科学研究所講師)
石原 昌英 (琉球大学国際地域創造学部教授)
佐々木 健志 (琉球大学博物館助教)

4. 閉会挨拶

玉田 薫 (日本学術会議九州・沖縄地区会議代表幹事)

琉球列島の生物多様性はよく知られているが、琉球列島の言語や文化も生物に負けないほど多様な姿を見せる。そして生物多様性と同じように言語と文化の多様性も失われつつある。多様性を生み出した環境は多様性喪失に繋がる弱点でもある。

本シンポジウムでは言語と文化の多様性の現状と今後の課題について意見交換する。

オンライン開催

2022

10.13 THU (木)

時間 15:00~17:00

参加費
無料

どなたでも
ご参加できます

【お申し込み方法】

右記のQRコードから
アクセスしてお申し込みください

<https://forms.office.com/r/5i7jmeWHe1>



お問い合わせ先

琉球大学 総合企画戦略部 研究推進課 研究推進係

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
TEL: 098-895-8016 FAX: 098-895-8185

主催：日本学術会議九州・沖縄地区会議 共催：琉球大学 後援：沖縄県、(一財)沖縄美ら島財団

公開シンポジウム

「サイエンスアゴラ2022セッション『世界科学フォーラムinケープタウン： 社会正義と未来への科学』」

主 催：日本学術会議若手アカデミー、国立研究開発法人科学技術振興機構

日 時：令和4年（2022年）10月21日（金）16：00～17：30

開催場所：オンライン開催

開催趣旨：世界科学フォーラム（WSF）シリーズは、ハンガリー科学アカデミーがユネスコ、ICSU（国際科学会議）、AAAS（米国科学振興協会）と共同で1999年に開催した「世界科学会議」を前身とし、以降、科学界と社会に同時に影響を及ぼす切実な問題について対話を行う2年に一度のフォーラムで、今年のWSF2022は「Science for Social Justice」をテーマに、南アフリカのケープタウンで開催される予定です。日本学術会議若手アカデミーでは、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）と共同で、WSF2022において、科学とグローバルな公益の関係について議論するセッションの開催を企画しています。

また、JSTでは「科学」と「社会」の関係をより深めていくことを目的として、あらゆる立場の人たちが参加し、対話するオープンフォーラム「サイエンスアゴラ」を毎年開催しています。本企画は、WSF 2022のプレセッションとして、サイエンスアゴラ2022で開催するセッションであり、地球規模のウェルビーイングのために知識を生産する現在の科学システムの分配的正義の本質を理解する機会を提供する予定です。北半球や南半球といった地域、一国内の地域、そして異なる科学分野において、どのような課題が存在するのか。国際的な専門家からなるパネルディスカッションでは、多様な知識生産を推進するための現在の課題とその克服方法、そして公正な科学が公正で自由な開発、経済、産業活動を通じて社会のウェルビーイングに貢献する方法について、聴衆と議論します。また、本セッションを通じて、今日の科学政策に関する主要な議論の場となっているWSFに、できるだけ多くの声を届ける機会を作ることを目的とします。

次 第（予定）：

16:00 開会挨拶、趣旨説明

荒川 敦（国立研究開発法人科学技術振興機構「科学と社会」推進部部長）

16:07-16:35 講演

「科学システムにおける分配的正義とは何か？」

標葉 隆馬（日本学術会議特任連携会員、若手アカデミー会員、大阪大学社会
技術共創研究センター准教授）

「知識生産の南北地域格差～経済開発の観点から」

ルーラ・イングレシ=ロツツ

（グローバルヤングアカデミー共同議長、プレトリア大学教授）

「社会課題解決に向けたローカルナレッジの包摂」

小野 悠（日本学術会議連携会員、若手アカデミー幹事、豊橋技術科学大学
大学院工学研究科准教授）

「持続可能な社会を実現するために、科学を産業活動とどう繋げるか」

小原 愛（一般社団法人Japan Innovation Network イノベーション加速支援
グループディレクター）

16:35-17:00 パネルディスカッション

パネリスト：講演者等4名

進行：標葉 隆馬（再掲）

大川 久美子（国立研究開発法人科学技術振興機構「科学と社会」推進部主任）

17:00-17:25 オープンディスカッション

パネリスト：講演者等4名

進行：大川 久美子（再掲）

17:25 まとめ、総合コメント

（未定）

公開シンポジウム
「持続可能な未来をつくる意思決定の仕組み」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議経済学委員会持続的発展のための制度設計分科会、持続可能な発展のための国際基礎科学年（IYBSSD）連絡会議

2. 日 時：令和4年（2022年）10月21日（金）16：00 ～ 17：30

3. 場 所：オンライン（科学技術振興機構サイエンスアゴラ 2022）

4. 開催趣旨：

国連とユネスコは2022年7月からの1年間を「持続可能な発展のための国際基礎科学年 IYBSSD」としており、日本学術会議はこれをサポートするために様々なイベントを行っている。持続可能な科学技術を開発し社会に実装していくためには、未来志向の取組に対する人々の賛同が欠かせない。サイエンスアゴラでは、基礎科学の一つとして政治経済学（望ましい投票の仕組み）とフューチャーデザイン（未来志向に変える仕掛け）を取り上げる。第一線の研究者による学知の紹介、パネルディスカッション、簡単な模擬実験を含む来場者との対話を通じて、持続可能な未来を選ぶ方法を考えたい。

5. 次 第：

16：00 ～ 16：05 開会のあいさつ

安田 洋祐（日本学術会議特任連携会員、大阪大学大学院経済学研究科教授）

16：05 ～ 16：20 報告1

浅古 泰史（早稲田大学政治経済学術院准教授）

16：20 ～ 16：35 報告2

西村 直子（日本学術会議連携会員、立命館大学食マネジメント学部教授）

16：35 ～ 16：55 パネルディスカッション

上記3名

寺井 公子（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学経済学部教授）

16：55 ～ 17：25 聴衆との対話（司会）：安田 洋祐

17：25 ～ 17：30 閉会の挨拶：寺井 公子

21 世紀前半に発生が確実視される国難級災害を 乗り越えるためのレジリエンス確保のあり方

■日 時: 令和4年 10月22日(土)14:30~16:00

■場 所: 兵庫県神戸市 JICA 関西2F ブリーフィング室 セッションシアター
※ハイブリッド開催(現地会場【定員 100 名】+オンライン(Zoom 配信)【定員なし】)

■主 催: 日本学術会議土木工学・建築委員会 IRDR 分科会

■共 催: 防災減災連携研究ハブ(JHoP)、ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 人と防災未来センター

■開催趣旨: 南海トラフ地震、首都直下地震など 21 世紀前半に発生が確実視される超巨大災害が切迫している。また、全国的に甚大な水害の発生危険性が高まっており、経済・社会活動が集中する首都圏では深刻である。こうした国難級リスクを乗り越えるため、残された時間の中で何を準備して、発災後はどのように対応すべきかであろうか。学術、行政、民間、メディアの見地から、国難災害を乗り越える俯瞰的な戦略と実行可能な具体的方策について討議する。

■プログラム

14:30 趣旨説明: 田村 圭子 (日本学術会議連携会員、新潟大学危機管理室教授)

【基調講演: 国難災害とは】

14:40 「21 世紀に国難災害がもたらす課題の全体像」(仮)

河田 恵昭 (ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 人と防災未来センター センター長)

【国難災害を乗り越える 3 つのヒント】

14:55 「津波シェルタータスカル8」(仮)

水野 茂 (株式会社ミズノマリノ 代表取締役)

15:05 「伝えることで解決できること〜残された課題解決のために〜」(仮)

大牟田 智佐子 (毎日放送 報道情報局 部次長)

15:15 「大阪北部地震の経験から・あらゆる主体に基づく防災のあり方」(仮)

多田 明世 (元大阪府茨木市 危機管理課長、よんなな防災会女子部 管理者)

【提言「国難級災害を乗り越えるためのレジリエンス確保のあり方」】

15:25 総合討論

〈司会〉川崎 昭如 (日本学術会議連携会員、東京大学教授、未来ビジョン研究センター)

15:55 閉会挨拶 林 春男: (国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長、日本学術会議連携会員)

■参加方法: 事前申し込みは不要です。現地参加の定員は 100 名、オンライン参加は定員はありません。ぼうさいこくたいホームページ(<https://bosai-kokutai.jp/2022/>)のプログラムのページ(<https://bosai-kokutai.jp/2022/program/>)に Zoom 配信用 URL を掲載いたします。

■お問合せ: 防災減災連携研究ハブ事務局(国立研究開発法人防災科学技術研究所)

info-jhop@bosai.go.jp



防災推進国民大会 2022 セッション

日本学術会議公開シンポジウム／第14回防災学術連携シンポジウム

自然災害を取り巻く環境の変化 ー防災科学の果たす役割ー

日時：令和4年10月22日（土）16時30分から18時00分

場所：Zoom ウェビナーによるオンライン開催

主催：日本学術会議 防災減災学術連携委員会

共催：（一社）防災学術連携体

* 本案は、防災推進国民大会 2022（主催：内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議）の中の一企画案である。

■ 開催趣旨

自然災害を取り巻く環境が変化しています。時代とともに、災害の要因だけでなく、災害を受ける社会も急激に変わっています。地球温暖化、地形の改変、計画性のない都市のスプロール化、生物多様性の喪失、森林の荒廃など、多くの変化が顕れています。

「人新世」という概念が、地質学会などで検討されています。人類の活動は飛躍的に拡大し、一人当たりの環境負荷は増大し、爆発的に増加した人口との相乗効果により、地球の環境は改変されています。COP26 など地球温暖化に関する国際的な枠組みが本格的に議論されている現在、このような大きな時代認識を踏まえて、自然災害を取り巻く環境の変化と、その対応を議論するのは意義あることと考えます。

近年、環境の変化もあり、自然災害と感染症との複合災害、線状降水帯の頻発化、熱海の盛土崩落による土石流、トンガの火山噴火と津波、日本の海底火山の噴火と軽石の漂流など、新たな多様なハザード（危機）と災害が出現しています。また、新たに検討されている日本海溝・千島海溝周辺型地震では、寒冷で平坦で人口密度の低い土地における津波・地震対策が課題になっています。防災に関わる学協会では出現した多様なハザードへの備えという重大な課題に直面しています。

自然災害を取り巻く環境が変化する中で、防災科学が果たすべき役割に焦点を当てて、広く意見交換をしたいと思います。

■ プログラム

司会 永野正行（日本学術会議連携会員、防災学術連携体幹事）
田村和夫（日本学術会議連携会員、防災学術連携体幹事）

16:30-16:40 趣旨説明

山本佳世子（日本学術会議連携会員、防災学術連携体幹事）

16:40-16:50 【基調講演】

人類の活動による環境変化と災害の多様化

日本学術会議第三部会員、防災減災学術連携委員会委員長
米田雅子

16:50-17:40 「自然災害を取り巻く環境の変化と防災科学の果たす役割」に関する発表

16:50 線状降水帯：その実態と予測精度向上にむけた学官連携
日本気象学会 安田珠幾

17:00 気候変動や森林荒廃に伴う土砂災害の被害軽減に向けて
砂防学会 小杉賢一朗

17:10 流域治水に資するレジリエントな建築環境の構築
日本建築学会 長谷川兼一

17:20 農業・農村の強靱化に貢献する農村防災技術
農業農村工学会 後藤高広

17:30 だれもが参加しやすい避難訓練
日本自然災害学会 矢守克也

17:40-18:00 質疑応答

18:00 閉会挨拶 目黒公郎（防災学術連携体副代表幹事）

■ 参加申込

参加希望の方は次によりお申し込みください <https://ws.formzu.net/fgen/S52194688/>

本セッションのZoomウェビナーのURLは、申し込まれた方々にご連絡すると共に、10月20日頃に防災学術連携体のホームページにも掲載いたします。（防災学術連携体のホームページ：<https://janet-dr.com>）

関連シンポジウムのお知らせ：

防災学術連携体主催の特別シンポジウム「自然災害を取り巻く環境の変化ー防災科学の果たす多様な役割」が別途開催（10月22日18時15分より）されます。こちらにもぜひご参加ください。

詳しくは、<https://janet-dr.com/> をご覧ください。

歴史教育シンポジウム：歴史総合をめぐる(6)

「歴史総合」の教科書と授業を検討する

2022年10月29日(土曜日)午後1時30～17時30分

オンライン開催

このシンポジウムでは「歴史総合」について各方面から検討してきたが、2022年4月から「歴史総合」の授業がはじまり、教科書が使用されている。そして、教科書も市販され多くの人も見られるようになった。このようなことを受けて、どのような教科書が出来上がったか、学習指導要領とその解説の趣旨はどのように実現されたかなどを検討する。さらに授業で使う教科書とは何か、授業ではどのように利用されるのか、歴史用語の暗記中心の歴史教育から大きく脱皮した新学習指導要領の下で、「歴史総合」では、教科書はどのように位置づけられるか、教科書と授業の関係を検討する。

プログラム

開会挨拶

若尾政希 一橋大学教授・日本学術会議会員・日本歴史学協会委員長

趣旨説明

君島和彦 東京学芸大学名誉教授・日本学術会議連携会員

司会

中野 聡 一橋大学学長・日本学術会議連携会員

報告

黒川みどり 静岡大学教育学部教授

「歴史総合」のめざすもの—教科書の検討から

若杉温 千葉県立幕張総合高校

「歴史総合」の教科書分析と一年間の授業づくり

坂井俊樹 開智国際大学教育学部教授(東京学芸大学名誉教授)・日本学術会議連携会員

歴史教育実践と教科書

閉会挨拶

栗田禎子 千葉大学教授・日本学術会議会員

※参加ご希望の方は下記URL・QRコードよりお申し込み下さい(〆切10月28日)。

※報告レジュメ等は、当日、チャット等で共有させていただきます。

お申し込み <https://bit.ly/3QyoYVi>



日本の社会・産業をリードする 化学系博士人材とは

～産学で取り組む博士人材育成と、
これから博士を目指す学生への期待～

開催日 2022年 **11月5日** 土 10:00～17:00

場 所 日本学術会議講堂
(東京・乃木坂)(ハイブリッド開催)

- | | |
|-------|---|
| 10:00 | 開会挨拶・趣旨説明
関根 千津 (日本学術会議第三部会員, 株式会社住化技術情報センター代表取締役社長) |
| 10:10 | 基調講演 平井 良典 (AGC 株式会社 代表取締役 社長執行役員 CEO)
「企業で活躍する博士人材」 |
| 10:40 | 博士小委員会活動を踏まえて 西村 君平 (東北大学大学院理学研究科特任講師)
「学生から見た博士課程進学」 |
| 11:20 | 垣本 昌久 (三菱ケミカルグループ株式会社経営企画部長)
「企業が博士に期待すること～研究者とは異なる目線から見た博士のポテンシャルとパワー～」 |
| 12:00 | 休憩 |
| 13:30 | 住田 佳代 (住友化学株式会社理事・バイオサイエンス研究所長)
「企業が博士人材を求める理由と期待～住友化学の採用&入社後キャリアパスの実際を例として～」 |
| 14:10 | 杉森 純 (読売新聞東京本社調査研究本部主任研究員)
「博士たちは今～化学出身の新聞記者が考える問題点～」 |
| 14:50 | 吉原 拓也 (北海道大学大学院教育推進機構先端人材育成センター長・教授)
「博士人材のイメージとリアル～博士・企業ごとに異なる現実～」 |
| 15:30 | 休憩 |
| 15:45 | パネルディスカッション (モデレータ: 関根千津) 上記講演者 |
| 16:55 | 閉会挨拶 茶谷 直人 (日本学術会議第三部会員, 化学委員会委員長, 大阪大学名誉教授) |

総合司会: 所千晴 (日本学術会議第三部会員, 早稲田大学創造理工学研究科教授・東京大学大学院工学系研究科教授)

主 催: 日本学術会議化学委員会、化学委員会化学企画分科会

協 賛: 公益社団法人 化学工学会、公益社団法人 高分子学会、公益社団法人 日本化学会 (五十音順)

申込期限: 2022年10月21日(金)

右記 web ページよりお申し込み下さい。 <https://forms.gle/hE1Ln6prXQ89dkpLA>





日本学術会議主催 学術フォーラム

安心感への多面的アプローチ

2022

11.5 土

13:00 - 17:10

共催 日本感性工学会

協賛 自動車技術会

COVID19の大流行、異常気象、他国からの侵襲、核爆弾利用の脅し、福島事故後の風評被害など、昨今、従来にも増して不安感の強い社会状況が続いている。一方、道路交通における自動運転など新しい技術や地球温暖化を抑制する施策の社会実装においては、その技術や施策が社会に受け入れられる形になっている必要がある。ここで、江戸時代の「知らしむべからず」施策による無知に根ざした安心感ではなく、寺田寅彦の「正当に怖がる」ことが重要である。本フォーラムでは、「科学技術基本計画」(第6期から「科学技術・イノベーション基本計画」)にも継続してうたわれている人々が安心を感じる社会を実現するために必要な科学技術について、多様な専門分野の研究者から事例や考え方をご紹介頂き、安心感の構成要素を明らかにすることで、人々が安心を感じる社会の在り方を議論する。

司会： 辻 佳子（日本学術会議連携会員、東京大学環境安全研究センター教授）
大倉 典子（日本学術会議第三部会員、芝浦工業大学名誉教授・SIT 総合研究所特任教授）

13:00 開会挨拶：吉村 忍（日本学術会議第三部長、東京大学副学長、大学院工学系研究科教授）

13:10 講演「ソーシャルメディアと安心感」 遠藤 薫
日本学術会議連携会員、学習院大学法学部政治学科教授

13:40 講演「医薬品と安心感」 土屋 文人
元日本薬学会副会長、元国政医療福祉大学教授

14:10 講演「AIと安心感」 佐倉 統
日本学術会議特任連携会員、東京大学大学院情報学専攻教授

14:40 講演「情報学から見たつながりと変化と安心感」 柴山 悦哉
日本学術会議連携会員、東京大学情報基盤センター教授

15:10 講演「道路交通における自動運転と安心感」 須田 義大
日本学術会議連携会員、東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構長、生体技術研究科教授

15:40 講演「安心感モデルの適用」 庄司 裕子
日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授

16:10 休憩

16:20 パネル討論：モデレータ：大倉 典子（前掲）、パネリスト：講演者、辻 佳子（前掲）

17:00 閉会挨拶：須田 義大（前掲）

参加無料

学術フォーラム【オンライン】

申し込みはこちら

<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0199.html>



積雪・寒冷地域に おける暮らしの これまでとこれから

—— 持続可能な発展のための冰雪圏からの視座 ——

わが国は、夏季は温暖であるが、冬季は積雪や凍結に見舞われる地域が多く、人々は工夫を凝らしながら暮らしてきた。また、近代化に伴い、寒冷地ではない都市部でも少量の積雪や凍結が経済活動に混乱を来すようになっている。

本講演会では、日本のみならず世界にも目を向け、寒冷な地域での人々の暮らしについて、歴史学、社会人類学、農学、雪氷学、環境学の専門家からお話を伺い、今後、私たちの生活様式の変化や気候変動が寒冷地域にもたらす新たな課題と、その課題にどのように向き合っていく必要があるかを参加者とともに考えたい。

〈 日 時 〉

令和4年 **11月5日** 土
13:30~16:55

〈 開催形式 〉

オンライン開催
(ZOOMウェビナー)
※事前登録制(先着500名)

参加申込方法

参加を希望される方は**10/30(日)**までに下記URLまたは右のQRコードより事前申込をお願いします。定員になり次第、事前申込の受付は終了します。



URL

<https://forms.gle/dPQkDNYKt1rPp94F9>

〈 現地会場 〉

東北大学片平キャンパス内
※事前案内済の関係者のみ現地参加可

〈 次 第 〉

司会進行：武藤 由子 (日本学術会議連携会員、岩手大学農学部 准教授)

1 開会挨拶 13:30~13:40

日本学術会議会長 梶田 隆章
東北大学総長 大野 英男 (日本学術会議連携会員)

2 講 演 13:40~16:25

① 昭和初期の雪害運動について

伊藤 大介 (東北学院大学教養教育センター 助教)

② 北国の農業を支える寒さ、涼しさ、雪の恩恵

下野 裕之 (日本学術会議連携会員、岩手大学農学部 教授、
岩手大学次世代アグリノベーション研究センター センター長)

休 憩

③ 雪氷災害と雪氷環境およびその変化について

根本 征樹 (防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター 雪氷環境実験室 室長)

④ 大気中の微粒子とその気候影響—積雪・寒冷地域での大気観測例を交えて

岩本 洋子 (広島大学大学院統合生命科学研究所 准教授)

⑤ 氷の文化誌—永久凍土の恵みと災い

高倉 浩樹 (日本学術会議東北地区会議会員、東北大学東北アジア研究センター 教授)

3 質疑応答 16:25~16:50

4 閉会挨拶 16:50~16:55

佐藤 嘉倫 (日本学術会議東北地区会議代表幹事、
京都先端科学大学人文学部学部長・教授、東北大学大学院文学研究科 教授)

〈 お問合せ先 〉 東北大学研究推進課 TEL: 022-217-4840 E-mail: kenkyo@grp.tohoku.ac.jp

〈主 催〉日本学術会議 〈共 催〉国立大学法人東北大学

〈後 援〉公益財団法人日本学術協力財団、東北学院大学、国立大学法人岩手大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立大学法人広島大学